

令和6年度 刈谷市 共存・協働のまちづくり推進委員会

第2回全体会議 記録

日時：令和7年3月11日（火）
午後2時00分～3時40分
場所：刈谷市役所4階 402 会議室

出席者

団体名・役職等	氏 名
愛知大学 教授	鈴木 誠
愛知淑徳大学 助教	熊澤 友紀子
刈谷市小中学校長会	細川 圭子
刈谷市商店街連盟 専務理事	柘植 祥史
刈谷市自治連合会	大野 裕史
刈谷市女性の会連絡協議会 会計	加藤 恵子
刈谷市ボランティア連絡協議会 会長	矢田部 寿子
NPO 法人刈谷おもちゃ病院 理事長	三輪 恒雄
文化工房かりや 代表	久保田 富士子
一般公募	石田 彰宏
一般公募	水鳥 幸子
刈谷市民ボランティア活動センター センター長	米田 正寛
市民活動部長	宮田 孝裕

欠席者

一般社団法人まちづくり支援センター 代表理事	塚本 裕章
防災ママかきつばた 代表	高木 一恵
一般公募	岡 由香

事務局

所 属	補 職 名	氏 名
市民活動部市民協働課	協働推進監兼市民協働課長	渡部 貴美子
市民活動部市民協働課	課長補佐兼協働推進係長	加藤 史彦
市民活動部市民協働課	主事	和田 佑佳
市民活動部市民協働課	主事	前川 和奏
NPO法人ボランタリーネイバーズ	副理事長・調査研究部長	三島 知斗世
NPO法人ボランタリーネイバーズ	理事・事務局長	遠山 涼子

1 開会

- ・定刻になり、市民協働課課長が開会を宣した後、資料確認を行った。（略）
- ・委員長あいさつの後、議事に移った。

2 議題

(1)まちづくりん部会について

■【資料1-1～3】を提示し、まちづくりん部会について事務局が説明

（令和6年度の活動状況）

- ・まちづくりコーディネーター（以下、まちコ）とは、地域の課題を「自分ごと」として考え行動し、ボランティアや市民などをつなぐお手伝いをする「まちのお世話役」である。

（まちコの活動報告）

- ・まちコ延べ45名が14件の活動に参画。うち4件はまちコによる自主活動である（2月8日時点）。
- ・「築地自治会体制見直しに向けた検討支援」は5回派遣にて終了。来年度振り返りを行えると良い。
- ・「刈谷いっぽく茶屋初陣」は刈谷西部自治会のお宝さがしウォーキングに出展した。まちコ交流会での提案を、まちコくらぶカフェで検討して実現した。
- ・「燎-kagaribi-への出展」ではまちづくり推進課が主催する事業に出展し、刈谷のまちづくりの歴史を辿るトークイベントを実施した。
- ・自主活動の幅が広がり、活動件数はコロナ禍以前を上回った。今後も地域と連携を図りながら、地域活動への伴走支援に取り組む。

（まちコ交流会）

- ・【第2回】日時：11月4日（月・祝）13時30分～16時30分 会場：ボラセン 参加者：19名。
- ・まちコ有志により運営し、まちコの活動事例と参加者同士の交流はそのままに、第1回交流会で話し合ったテーマに関する進捗報告を行った。学生団体「かりピース」が参画して活動報告を行い、交流が進んだ。

（「つなぎの学び舎・リカレント」まちづくりステップアップ講座）

- ・まちコを含むまちづくり活動者を対象。全6回開催し、延べ53名が受講。まちコ以外へ参加を広げるため、広報やカリキュラムを検討する必要がある。

（共存・協働による地域活動の活性化に向けた検討／小山地区恩田4組ヒアリングの結果報告）

- ・「共存・協働で取り組めるとよいこと」の好事例や種となりうる事柄にマーカーを引いている。
- ・前回報告した「東刈谷地区ヒアリング」のテーマ1～3に続けてテーマ4とした。

●テーマ4「組単位のLINE使用で、地域の情報伝達を円滑に」

- ・組単位で公式LINEを使用し、回覧板の内容を共有。運用開始から1年半以上経ち、組内の電子回覧率は93%である。
- ・「小さな地域の単位」、「若い役員がいる」、「比較的新しい地域」である点が、この取組みになじみやすい地域の特徴である。

ポイント1）紙媒体と並行してさっと始めた

- ・電子回覧板と紙媒体の並行により、組員が自分で選べるようにしたためスムーズに進んだ。

ポイント2）電子回覧板の作成・配信は短時間で可能

- ・月2回の配信とリマインドで利用。作業時間は全体で30分に満たないため、負担には感じない。

ポイント3）顔を合わせる機会づくりも考慮する

- ・過去の回覧を見返すことができたり、清掃活動の雨天中止を当日の朝一斉に案内できたりするメリットがある反面、顔を合わせる機会は減る。人と人とのつながりづくりはやはり重要と考えて、公園清掃を毎月を増やしたところ、組員が会うようになり、よく話すようになった。

ポイント4）組単位LINEの汎用性 ～引き継ぎ・役割分担・地域サイズが鍵～

- ・マニュアルを作成し引き継ぐ。一人で難しい場合は、作業を小分けにして一人の負担を減らし、協力の範囲を広げる。
- ・公式LINEは個別にやりとりができ、組長と班長の良いコミュニケーション手段となる。人数が多いと対応しきれないため、適正な範囲で運用されるとよい。
- ・若い世代の参加は忙しいから無理だと固定観念を持たず、声をかけていけば協力的な人はいるはず。

◎テーマ4に関する部会でのご意見

1～2年かけて進めている点が良い、負担感を与えないよう時間のあるときに気軽に参加して、と柔らか

な声かけを工夫されている点が良い。

◎全体に関する部会でのご意見

負担に感じないコミュニケーションがあるとよい。例えば、隣近所の飲み会など小さなことから始める、まちコが住民と行政の間に立って意思疎通を促すこと等ができるるとよい。

- ・来年度前半の自治連合会勉強会にて情報提供をし、実行したい自治会に手を挙げてもらって後方支援に取り組む。ヒアリングを担当したまちコに伴走支援に取り組んでもらえると良い。

■質問・意見交換

【組単位の LINE 活用】

委 員：小山地区恩田4組の事例はどのようにして取り上げる流れになったのか。

事務局：昨年度、小山自治会長と恩田4組の組長がまちコ交流会に来てくださった際に、この取組の情報をお聞かせくださり、とてもよい事例だということで、モデルの候補に挙げることになった。

委 員：自分の地域でも近所の方から「回覧板って必要？」と聞かれたので、こうした取組があるのだと参考になった。

委 員：比較的世帯数が少なくてやりやすい地域であるうちの組もこんなことができるというなと思う反面、顔を合わせる機会が少しずつ少なくなっている状況もある。昔下水がひかれる前、毎週側溝の掃除をしながら近所の人と話をコミュニケーションをとっていたが、下水が完備されてそうした機会はなくなった。それに代わるものがないといけなよね、と話しているが、まだ効果的な案は出てきていない。回覧の電子化も便利で良い面はあるが、昔あった機会に代わるもの、ちょっとしたことで顔を合わせる機会、高齢者や若い人がつながる機会など、地域にマッチした内容が、住民の総意として出てくるとよい。

委 員：この組長さんはLINEに長けているが、マニュアルを作って誰でもできるようにしている。また、急に電子に切り替えるということせず、紙とLINEと両方で進めて、住民に「回覧板は紙・LINE・両方のどれが良いか」というアンケートをとったところ、「LINEでよい」という人がだんだん増えてきたそうだ。刈谷西部地区でも始めてみようと考え、HPにリンクする二次元コードをつけて回覧をしている。半年くらい経ったところで電子化を提案してみようかなと思っている。恩田4組も2年かかったということで、慣らしの段階を試しているところである。

委員長：比較的若い人が多い地域であった点も優位に働いた。紙と電子を並行してさらっと始めるというのがおもしろい。ここは「LINEビジネス」を使っているのか。

事務局：「公式LINE」を使っている。公式LINEは、月200通まで無料で送信できる。例えば今川地区では地区全体で電子回覧を行っているので、月5000通まで送信できる有料の仕組みでやっている。

委員長：そうした情報も共有できるとよい。

【若い世代が自治会に加入するには】

委 員：若い人が自治会活動に参加していることについては、どのような工夫があったのか？

委 員：若い人は大体仕事をしているので、仕事の邪魔にならないような運営の仕方をするるとよい。例えば平日昼に集まるのは難しく、土日には家庭のこともあるので、日曜に月2回だけとする等。ただ、来年度から市民だよりの配布が組長・班長の仕事ではなくなるので、声をかけるチャンスである。若い人の中でもやりたい人はいるはずなので、イベントの時等に目星をつけておくとよい。

委員長：自分の地域では、電子化に対応できる人に自治体役員をやってもらう方針にしている。自分の時間（仕事、家庭生活等）を拘束しない、うまいやり方があるんだよということをはっきり打ち出していくことが重要である。

委 員：電子回覧について、若い人は携帯を使いこなしているが、年を取ると携帯を見る習慣がなく、しょっちゅう見ていないと忘れてしまう。予定は紙に貼っておかないと忘れてしまうという状況もある。

(2)夢ファンド部会について

■【資料2-1~3】を提示し、夢ファンド部会について事務局が説明

(令和6年度かりや夢ファンド補助金活用事業の実施状況について)

- ・まちづくり活動支援事業補助金：9件。うち1件は精算完了。8件は3月末事業完了後に実績報告を受けたのち、精算を行う。3件から減額申請があり承認した。
- ・NPO 法人設立支援事業補助金：1件。3月末事業完了後、報告を受ける。
- ・まちづくりびと支援事業補助金：7件。いずれも精算まで完了した。

(令和6年度かりや夢ファンド補助金公開審査会 審査結果)

- ・1月18日(土) 公開審査会を開催。
- ・まちづくり活動支援事業補助金：申請6件。全て採択された。うち4件は、補助金申請額5万円以下のため、書類審査のみで採択を決定した。
- ・NPO 法人設立支援事業補助金：申請なし。

(まちづくり活動支援事業補助金：5万円以下申請事業内容の追加情報)

- ・【保護犬・保護猫チャリティーマルシェ プ・ア・プ】開催日が3月23日(日)に確定。保護団体やペット関連ブース、ワークショップ等50店以上出展。
- ・【西三河レインボープライド】開催日が3月30日(日)に変更。

(令和6年度寄附実績)

- ・企業や市民からの寄附を基金に積み立て、寄附と同額を刈谷市も基金に積み立てる「マッチングギフト方式」を採用し、運用している。かりや夢ファンド補助金の他、笑顔あふれる地域づくり補助金にも活用した。

(かりや夢ファンド補助金見直し検討結果)

- ・過去採択団体へのアンケート、ヒアリングをもとに、部会長及び米田委員と検討を重ねてきた。公開審査会后、部会員よりいただいた意見をふまえ、課内で検討した結果をまとめた内容で、部会員には報告済である。以下、主な変更点。
- ・【NPO 法人設立支援事業補助金】対象経費に「その他の経費」を追加し、補助対象を広げる。
- ・【まちづくり活動支援事業補助金】補助上限額はそのままとし、補助回数は初回申請から10年間で3回まで、補助率は3分の2に引き上げ、一部前払い選択を可能とする。
- ・補助回数は、「1事業」ではなく、「1団体」で数える。団体・市共に分かりやすく、確実な判断が可能。
- ・補助回数は10年でリセットされるため、団体は10年後再度3回まで申請でき、未来の事務を考えた場合も過去10年分が対象となり、団体数が膨らむ恐れもない。
- ・以上について部会員に前もってメールで確認を依頼したところ、ご意見は頂かなかったため、部会としてこの方針で進める。今後はこの内容について市内部で諮り、来年度夏の募集より運用開始予定。

■質問・意見交換

【市民活動支援基金の状況について】

委員：資料2-3のR7年度予定として、予算計上されている収入と支出の数字が異なるのはなぜか。

事務局：R6年度より、かりや夢ファンド補助金とは別事業である、自治会活動の活性化を支援することを目的とした「笑顔あふれる地域づくり補助金」にも市民活動支援基金を充当しているため、資料2-3の表にも記載をした。市民活動支援基金には毎年100万円程度積み立てがあるため、5年毎の周年事業でまとまった額を支出している。これまでの周年事業では、かりや夢ファンド補助金を活用し、市民活動団体を対象に100万円を上限に補助を行ってきたが、市制75周年であるR7年度の記念事業では、「笑顔あふれる地域づくり補助金」を活用し、各自治会へ50万円支給する。各自治会で冠を付けた事業が市制75周年事業として取り組まれるので、ぜひご参加いただきたい。

【かりや夢ファンド補助金見直しについて】

委員：変更点のうち、補助回数が3回までになったところが使いやすくなったと感じた。これまでの補助回数が2回までという条件では、1年目にまずはやってみて、2年目に改善する、3年目はさらにレベルアップを、と思っても補助がなくなってしまう。活動は続くものだし、このように変更されたことで、若い人に挑戦してもらえるとうれしい。

【かりや夢ファンド補助事業の実施状況について】

委員：資料2-1の補助申請額と支払額が異なる事業は、決定した額を使いきらなかったということか。
事務局：実績報告の際に領収書が用意できず減額になったり、予定が変更になり交通費が不要になったりした。
委員：今年度の実績報告で減額があるという指摘は、その時々状況はあるだろうと思うが、減額の割合が大きいとそんなに動いてしまう予算立てだったのかなという感覚をもった。出す段階でもっと精査されると良い。
事務局：手品会の減額は、当初では総合文化センター大ホールを使用予定で、その使用料が予算の多くを占めたが、事業内容変更に伴いハイウェイオアシスで行うことになったため、施設料が0円となったことが大きい。また、公開審査会の際に、審査員より参加費が高額という指摘を受け、参加費を無料としたなど改良を加えた結果である。

【かりや夢ファンド寄附実績と目標数について】

委員：寄附実績は、繰越金などの全体像が見えないので分かりづらい。かりや夢ファンド補助金を色々な人に周知し使ってもらうことが重要だが、まだ知らない方が多いだろう。全体の予算のうち、かりや夢ファンド補助金で最大何件まで補助できるのか、目標数値があるとよい。活性化するためには、審査は大変になるが申請数が増えた方がよい。そうした全体の考えが示されるとよい。
事務局：R7年度のまちづくり活動支援事業補助金の予算は、上限5万円枠が10件分、昨年度上限20万円枠の申請事業2件分をあわせて、90万円とっている。

【かりや夢ファンド補助事業の周知について】

事務局：広報の一環としてのぼり旗を製作した。補助金活用団体のイベント当日に活用されるよう、周知していきたい。
委員：若い世代に向けてどのようなアプローチがあると、制度を知りチャレンジする機会となるのか、今後ともみんなで考えていきたい。スタートを切るために良い補助金である。
委員：スマイルリンクの活用事例が子ども食堂へ伝わるとよいが、こども食堂自体がまだ知られていない。審査に携わって初めて、市内で子ども食堂が行われていることを知った。子ども食堂の取組を市民に知ってもらうことが第一歩である。
委員：商店街連盟で行っている刈谷あきんどマルシェでは、学生たちによるチャレンジングな取組がある。こうした場ののぼりがあればつながるきっかけとなるかもしれない。
委員：委員会に参画して初めて補助金を知った。改めて見ると市民だよりに載っていたことに気づいた。駅など人通りがあるところに「かりや夢ファンド補助金がありますよ」という情報が展開できるとよい。
事務局：駅前のデジタルサイネージ、かりまる等でも募集情報を周知する予定である。
委員長：実施団体に補助金の紹介や募集の案内をお願いしたり、事業が終わったらお礼のメッセージを送ったり、募集時期でなくてもPRしたりするなど、あの手この手で取り組むとよい。広報はそれぞれの生活スタイルの中で見てもらえるよう工夫すること。発信者の意図だけで出しても伝わらない。受け手の意図を考えた取組は意外と浸透していく。事業を始める前と終わった後は最低限取り組むと良い。

【夢ファンド部会の協議結果について】

委員：部会の審議で、まちづくりのテーマは幅広いということが確認できた。NPO 法人設立支援事業の採択団体の活動に参加し、グアテマラの子どもに英語を教えたが、その活動による刈谷のまちづくりへの貢献をどうとらえるか。のぼりを見て自分が対象者だと思ってしまうことが大事であるが、自身の活動がまちづくりであるにとらえずに活動している活動者も多い。応募者を広げるためには、採択団体が知り合いの団体に紹介する方法が、10 件という規模的にも、地域やかかりや夢ファンド補助金の趣旨にも合っているのではとの意見があった。

制度の見直しについては、申請者の目線で良い案をまとめることができ、運用を楽しみにしている。5 万以下の枠で 3 年間続けられるのは団体の規模に合っている。それを口コミで広げて、友だちを集めるように取り組まれるとよい。

委員：採択団体が活動する際に基金の PR に協力することを要件に加えてはどうか。

委員：PR に使える資料を自分たちで印刷できるようにしておくといふ。

委員：制度の変更点は全て良いものであるが、1 団体あたり 3 回までとしたことで議論が進展した。ミッションが完了したら新たな活動に新たな仲間を集めて取り組まれていくといふ。

(4)市民協働事業の進捗状況について

■【資料3】を提示し、市民協働事業の進捗状況について事務局が説明

・共存・協働のまちづくり推進基本方針の 6 つの柱に沿って報告。

（かりや衣浦つながるネット）

・2 月 8 日（土）に東浦町にて団体交流会を開催。子ども分野の活動団体を対象に、「こどもまんなか活動者の集い」と題して実施した。日本福祉大学・野尻氏のスキルアップ研修の後、参加者による交流会を行った。

（わがまちのつむぎ場）

・12 月 1 日（日）に開催し、ボランティア団体や企業等 25 団体が参加した。各団体が積極的に交流し、情報交換が行われた。市民協働課及びまちこくらぶも出展し、事業 PR を行った。

（わがまちのしゃべり場）

・2 月 8 日（土）に開催し、30 名が参加した。3 団体の活動事例紹介の後、ゲストを含む参加者同士で語り合った。

■質問・意見交換

【子どもと地域活動について】

委員長：子ども分野の活動では、市民活動や地域活動から子どもたちへ、地域の大人たちとの関わりを求めることがあるが、地域の側からの子どもたちへのアプローチに対して感じることはあるか。

委員：今の学校は環境に恵まれた状態で学区の学習に取り組んでいる。地域学校協働活動として、地域の方に家庭科の授業でご指導いただく等の取組は普段から行われている。小堤西池での学習を通じて、大人になったら守る会で活動していこうねと学習したり、まちたんけんに取り組んだりもしている。先日愛教大生と一緒に、大学はこういうところだと学ぶ大学探検も行った。終了後、学生と教授と振り返りを行った際に、良い活動なので広げたいが、資金がないという話が出た。こういう場面でかりや夢ファンド補助金のような補助金を活用できるとよかったなと思った。

委員：来年度のかりや夢ファンド補助金事業に、防災かるたを制作し小中学校で取り組む提案が採択された。学校とコラボして取り組まれる予定である。

委員：地域学校協働コーディネーターとして小垣江東小学校を担当している。授業を地域の方が応援することで先生の負担が少なくなったり、地域のイベントに子どもたちが参加したりする。元刈谷地区の川清掃には中学生が多く参加するなど、地域と学校の連携が行われるようになってきている点は良い。かりや衣浦つながるネットの団体交流会では、不登校の子供を持つ母親の会に参加を呼び掛けた。他市町でも同様に子どもの接し方やどう育てていくか手探りで取り組んでいる団体があり、情報交換を

して活動を展開してもらおうと考えた。そうした場に学校の方も入ってもらえると違った視点があって良い。交流会はボランティア団体に限られるため難しいかもしれないが。

委員：東刈谷小学校で全クラス 1 時間ずつ、まちコとして授業を行っている。ブックトーク形式で学年ごとに「節度」や「仲良し」、「生き方」などのテーマをいただき、話をしている。来年度も継続する予定である。まちコの宣伝活動にも取り組んでいる。

かりや夢ファンド補助金採択団体の「サブロー・ガルテン」とコラボして勉強会を開催している。読み聞かせは大人が子どもにするのが一般的だが、子どもが大人に読み聞かせをすることを目標として団体を立ち上げた。かりや夢ファンド補助金を活用して活動の場を作っていきたい。また、まちコにも声をかけて広げていきたい。

3 その他

◎2 年任期終了にあたり、委員から一言コメントをいただいた。

委員長：共存・協働のまちづくり活動が活発となってきており、それを促すための制度の見直しもできた。これから楽しみにしていきたい。

委員：まちづくりの分野で学びが多くあった。夢ファンド部会での話し合いを持ち寄り、まちづくりん部会での進捗と合わさることで深まり、話が聞けることが楽しみであった。

委員：学校とは違う視点で、まちをより活性化するために話し合う場があることが勉強になった。

委員：2 期目を終え、いろいろな活動団体があることを知った。商店街の枠に限らず、市内の活性化につながるようみんなで考えていく場が素晴らしいと感じた。

委員：まちづくりコーディネーターの世話人として、まちづくりが好きで楽しく活動している。ボランティア部を立ち上げ、高校生・大学生だけでなく小中学生にも広げ、まちづくり部として展開していきたい。ご協力の程よろしくお願いします。

委員：かりや夢ファンド補助事業の刈谷市赤十字奉仕団の防災かるたの応募数が千通を超えたと聞いた。選定は大変になるが、来年度は赤十字奉仕団で高須地区班長を務める予定のため、展開を見守っていきたい。

委員：刈谷市ボランティア連絡協議会は創立 40 周年記念事業を無事終えた。若い世代につながり活動をしていきたい。かりや夢ファンド公開審査会を楽しみに参加した。熱い想いで頑張っている人たちの存在を感じて、刈谷っていいなと感じたことが一番の喜びだ。

委員：一団体として気づいた点を申し上げた。

委員：知らなかったことが学べた 2 年間でした。

委員：燎-kagaribi- のイベントでは、市の担当職員や高校の地域交流部など、若い人たちが中心となって取り組んだ。若い世代がまちに出る機会をもっと増やしていけるよう、ボランティア部を通じて取り組んでいきたい。

委員：参加するたびに刺激を受け、意見が参考になった。自信を持ってまちコと言えるよう、これからも勉強していきたい。

委員：センターの役割は団体を育て支援すること。ボランティア活動を多くの市民に取り組んでもらうこと。そのために団体の声を聞いて何ができるか考えていきたい。

（推進委員会開催日の）午前中にぼらっちカフェを開催し、市外からも多くの参加があった。若い人を活動に取り込むには、子どもの頃から地域活動に関わってもらおうと自然にできると意見があった。地域の人と子どもたちが一緒に遊ぶ機会がなくなっている。小さな頃から地域活動に親しむ、そのためには学校の協力も必要と考える。高校生や大学生が組長や班長をやれるような地域を目指して、まちのために頑張りたい。

委員：若い人の自治会参加に関して、自治会があることで共助力が上がり、防災・防犯につながるという面から加入につなげたい。子ども会を大切にすることで親の自治会加入へつなげることも検討している。

また、いろいろな団体で活発な活動がある。そうした団体と自治会とのコラボにつながるとおもしろい。

顔の見える関係が希薄化する中で、困りごとの解決には自然と人が集まる。地域の自主防災会の活動には住民共通の困りごとのために多くの人に参加し、結果的に顔の見える関係ができている。触れ合うきっかけを設けて自治会活動を活発にしていきたい。

事務局：学識経験者、一般公募、地域、市民団体、事業者、教育関係の代表としてそれぞれ参画していただいている。次期任期に関してはあらためて依頼を申し上げる。

以上